

便教会初心者研修会



大阪府立藤井寺支援学校

2015. 10. 10

＜便教会初心者研修会＞

目的→ 掃除に学ぶとは、その原点を探る

日時→ 10月10日(土)13時～17時

場所→ 大阪府立藤井寺支援学校

講師→ 田中義人氏(日本を美しくする会 会長)

内容

一部 講話

- ① 鍵山相談役との出逢いをどのように活かしたのか
- ② 神社の掃除で「お釈迦様の掃除の功德」の体験
- ③ 教育には意識下の教育と無意識下の二種類がある
- ④ 私の子育て論(心身健康な基礎作り)
- ⑤ トイレ掃除から学ぶポイント
- ⑥ 掃除リーダーの学び
- ⑦ 日本を美しくする会、未来への提言

二部 実習

- ① なぜ、掃除用具が、こんなにあるのか
- ② 五感を使った掃除への取組み
- ③ クエン酸の使い方
- ④ ガラス磨き



★京都府 三十代 男性★

【掃除は無自覚の自己変革である】

頭では分かっているけど、いざ行動しようとするときできない理由が頭をよぎる。「仕事が忙しいから」「疲れているから」「また明日からやればいい」…。そうやって、いざやろうとした時に、悪魔のささやきが聞こえてくる。しかし、田中会長は、鍵山相談役と出会われた次の日から神社の掃除を行われた。できるかできないかではなく、やったかやっていないか。この差が後に大差になる。即行動するという実践力のみが、自分を変え、自分のまわりの景色を変えていく唯一の方法であると改めて確信した。

今回の田中会長のお話を、自分の生徒や子どもを思い浮かべながら聴かせていただいた。「あいさつは笑顔ですることが大切だ」「掃除というのは気付き力を高める」とよく口にする。教壇に立ち、そうやって講釈をたれる。でも、その講釈は確かに伝わっていない。特に自分の息子に、伝えるのは難しい。自分の息子だから故に、伝えたいことはいっぱいある。しかしながら、その思いとは裏腹に、できていない息子を叱ってしまう。

・「前の晩には明日朝早く起きて、野球の練習をする」と言っているけど、朝になると起き

られない。

・やることを先にやって余裕を持って行動するように言っているけど、ぐずぐずして、時間が近づいてきたら慌てて準備し、間に合うか間に合わないかぎりぎりに出ていく。

・テレビがついていると、そちらにばかり気に取られ、やることが進められない

こんなことで、つい説教が始まるのであるが、このことを自分に照らし合わせた時に、よく似ている自分があることに気付いた。この便教会初心者研修会に到着したのも、5分前。学校があつたという理由が先に出てしまうが、それでももう少し余裕は持てたであろう。朝に関しても、目覚ましをセットしては止め、結局朝にやろうとしていた仕事をせずに、寝てしまうことがよくある。そして、切羽詰まった時だけ、何とか起きて仕事をこなす、そのことをえらそうに「父さんはやっている」と言っている。でも、息子はその姿を見透かしているであろう。なまじ身近にいますので、そのすべてを息子は見ているし、聴いている。だからこそ伝えるのは難しいし、行動で、そして背中で教えるしかないのであろう。「良いことほど言葉では通じない。身近な人ほど通じない」という言葉が、ズバツと心に突き刺さった。

後半は、リーダーとしての自分を振り返る

時間となった。その中で「他人に任せても社員は育たない」という田中会長の言葉が身に染みた。このことは、逆にいえば、社員に対して責任を持つということでもある。他人に任せただけの場合、育たなかったら、その人のせいにしやすい。でも、自分が育てると決めれば、その責任は自分になる。だから逃げられないし、面倒も見るのである。社員は自分で育てるんだという覚悟が、その社員にも通じ、「この人に迷惑をかけられない」という社員の気持ちだが、結果をもたらすのではないだろうか。

担任をするなら、自分の受け持った生徒には責任を持つということであろう。「授業態度が悪ければ、その教科担当は何をしているんだ」「遅刻が多ければ、家庭での教育はどうなっているんだ」と矢印が他へ向く。しかし良いクラスを作る先生は、すべて自分に矢印を向ける。だから、それぞれの問題に対してきちんと向き合う。今回の言葉で言うところ「今を引き受ける」ことをされている。この気持ちが出発点であり、この気持ちを作り出すのが、掃除への実践なのである。

そして、掃除の実習をしながら、「やる気にさせる心遣い」を田中会長から学んだ。鏡がみるみるきれいになっていくのを見て、自分もやってみたいと思うようになった。ガラスの傷にワックスを塗られて消えていく様

子を見て、工夫することの大切さを感じた。そういう姿を見ながら、どんどんやる気になっていった。

今を引き受け、子どもの心に火をつけ、それぞれが輝きだす。この研修会を終えて、1つ決めたことがある。「週に1回、自分の子どもと一緒に掃除をする時間を作る」ことである。そうやって、言葉ではなく、行動で伝え、今回のように掃除から得られる感動を自分の子どもにも体験させたい。その思いが、また自分の実践にもつながるであろう。

今回、お忙しい中、多くのことを教えていただいた田中会長・千種さんをはじめ、会場を準備していただいた松浦先生、そしてこのような会をコーディネートしていただいている大谷先生など、多くの方々のご尽力の上で、学びを得られていることに感謝し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

★東京都 三十代 女性★

田中会長のお話を拝聴した時に感じたことは、会長は、一つずつあらゆる困難を解決し、それを一つずつ丁寧に積み上げてこられたということ。人は、困難な状況になった時に逃げ道を探しますが、会長はそれを真正面から受け止め、ご自身の力で暗闇から光を見つけられた方だと思いました。

また、田中会長が観音様のお話をされた時に、延命十句観音経が頭に浮かんできました。(和讃)

『…どうか人の世の苦しみを救い下さい人の苦しみをすくおうとなさる』

そのころこそ仏さまのみころであり私たちのよりどころです

この仏さまのころが

私たちの持つて生まれた本心であり

さまざまなご縁にめぐまれて

このころに気がつくことができます…』

人を救おうとする仏さまの心が、田中会長のおっしゃっていた『良心』であり、この心が本来、私たちが持つている心であるのだと思います。しかし、いつの時代でも、苦しみは絶えません。そのような中でも困難から逃げることなく、常に相手を思い、家族を思い続けた会長の目は慈愛に満ちていらつしやいました。

『…わたしたちはいつの世にあっても』

変わることはない思いやりのころを知り

苦しみ多い中であって 人の為に尽くす楽

しみを知り

この慈悲のころを持つて生きることが本

当の自分であり

汚れ多き世の中で 清らかな道であると知

りました』

日々の生活の中で、思うようにならないことや辛いこともありますが、トイレ掃除をし、誰かの為に自分も役に立つことがあるのだと感じた時に、本当の自分に戻れたような気がしました。

「魂が喜ぶ生き方」とは、あらゆる出来事や行動に意味を見いだし、人の為に尽くす喜びを感じる生き方だと思います。

今回、大阪の先生方のご尽力のお陰で、貴重なお話と経験をさせて頂くことができました。いつも関西に行く度に、温かい気持ちになります。様々なご縁に恵まれなかったら、私は、人の優しさに気づくことができなかつたと思いますし、この出逢いもなかったと思います。たとえ、遠く離れていても「一燈照隅 萬燈照国」一隅を照らせられるよう自分の与えられた役割を果たしていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

★兵庫県 四十代 男性★

この度、便教会初心者研修会に参加させていただき、ありがとうございました。

田中会長から、ご自身の経験を踏まえて掃除の持つ力をお教えいただきました。ユーモアあふれる経験談の中で、深い思考に基づいた真実をズバツと投げかけていただきました。

「環境作りは人間作り」

「良いことほど伝わらない」

「人間は当事者になることで本物になる」

「感謝が当たり前になり、やがて不満となる」

「ピラミッドの基礎の部分は誰も同じ。基礎を大切に作る。しかし、人はテッペンの部分を見たがる。」

苦難を乗り越え、懸命に考えてきたからこそ、このような言葉が生まれるのだと思います。

教師である私たちは、意識下の教育に随分と力を注いでいるようです。授業では、教材の解釈力を鍛え、指導技術を習得し、より分かりやすく、正確に知識や技能を伝えようとする努力します。学級では、仲間と協力することの尊さを語り、善悪の判断を持ち、正しく行動できる人になるように諭します。これらの行為は決して間違っていないのですが、田中会長は、無意識下の教育の大切さを語られました。教師の「言葉」であったり、子どもたちの「習慣」が教育を創っていくということなのです。教師と子どもが過ごす場が美しく整っていることが何よりも大事になります。当事者である教師と子どもがその場を創りだすことが求められます。少なくとも教師だけでも学ぶ環境を創りだす必要があります。目指すべき教師像をご提示いただきました。

実践では、鏡・窓の拭き方とクエン酸の力を教えていただきました。やり方だけでなく、その意味を含んだ説明は納得すると同時に、早く実践してみたくなりました。私は尿こしを磨きました。これまで私が感じていた、ゴシゴシと磨き、落ちていく喜びは、相手を傷つける危険性を多く孕んでいます。クエン酸を使う方法は、相手を傷つけず、同化させていくやり方です。この考えと体験は、教師として子どもたちと接するときの心の在り方として、重要な示唆となりました。

今回、同じ学校に勤める同僚と参加できたことは私にとつて大きな喜びであります。もちろん一人で実践することは尊いものではありますが、子どもたちに影響を与えることからすると、同じ思いを持ち、共に実践できる教師集団であるほうが大きいでしょう。私自身も励みとなります。

これからも、目を輝かせて掃除に取り組み、自分を磨いていく子どもたちを育んでいきたいと思えます。

ありがとうございました。

★大阪府 六十代 男性★

【田中義人会長の講話と実習に学んで】

掃除の本題に入る前の、田中会長の「知られざる」二面の数々や今に至った経験などを

お聞きし、「人間が出来る」、または「人物となる」人には共通する道筋があるように感じた。この人に、そのようなひどいじめられた過去や困難な事態があったのかと、思いもしなかった経験を話される田中会長。それらすべてに耐えて受け入れ、前向きに生きてこられた姿に、私自身の生き方の弱点や未熟さを感じた。会長が、これまでを振り返って、自分を育てたこととして、一つ「常に良き人との縁があつて救われたこと」二つ「困ったことがあつたお陰」三つ「問題から逃げられなかった」ことを挙げられた。

そのような中で、鍵山相談役という人物と出会い、掃除というところ磨きの業を知り、実践する日々から、掃除の意義を深く体感され、掃除は「人生を豊かにする」「すっきり澄んだ空気をつくる」と仰った。また、その実証を、お釈迦様の言葉や観音経などからも引用されたところに実践する者の端くれとして、得心を得た気がした。

また、経営者の経験からのお話の中で、従業員にボーナスを与えると、初めは「感謝」されるが、それが続くと「当たり前」となり、やがて「不満」となるということに、人間の陥りやすい非礼、醜さ、哀しさを教えられた例えとして自戒したいと思った。

講話を終えて、実習でのきめ細かい掃除へ

の方法が、人それぞれの根本にある本来のもつ輝きを引き出すための気配りと同じく、そのまま掃除する対象にも向けられている姿勢にあらためて驚かされた。

今回の学びと気づきを自分の日常生活と学校生活にいかにか活かしていくかが問われた気がする。まだまだ、修行が足りないと感じた講話と実習でした。有難うございました。

★大阪府 二十代 男性★

便教会初心者研修会に参加させていただき、ありがとうございます。準備いただいたこと、また田中さんにわざわざ東京より来ていただいてお話をいただけたと、とても貴重でありがたいことなのだと感じました。

田中さんのお話は小さい時から自分がどのような環境からどのような影響を受けたか、様々な面でお話いただきましたが、自分について同時に考えていました。自分はどのような影響を受けたのだろうか、と。小さいときの友人、小学校や中学校のクラス、親、食生活、客観視してみると、今の自分を成しているものはこれで影響を受けたのかな、と思いついたものもありました。同時に改めて、自分は過去の出来事や出会った人に育ててもらったのだ

と思いました。良かったことも悪かったことも感謝して、今の自分を素直に受け入れる、フラットな状態を保とうと改めて思いました。その後「リーダーは環境を作らなくてはいけない」と続けました。自分がどのような環境を作っているか考えた時に、子どもにもっとできることがあるはずだと思えました。子どもの立場に立って、周りの友達、雰囲気、教室、そうじ場所、そうじ道具、色々な面で多大な影響を与えている責任を感じ、環境作りに努めようと思えました。

鍵山相談役の掃除道について深い所を伝えていただいた気がします。まだ理解しきれない所もあります。しかし何となくでも、強く共感させていただくことばかりでした。今を引き受けるという言葉がとても好きでした。今生きていて、周りの社会は慌ただしくても、大切にしないではいけな

いものを感じると見つめるような感覚だなあと思えました。途中にあった「イヤなやつはバロメーター。いい時はじっとしてくれているし、悪い時は周りを巻き込んで悪口を言い出したりする」という考え方。何と温かいというか、優しいんだと思えました。どんなにイヤな人でも、その人のおかげでもたらさ

れること、そこに感謝する。すぐには思えなくても、整理する中で繰り返し思うことで、自分も素でそう考えられるようになりたいと思えました。

田中さん、準備してくださったみなさん、ありがとうございます。

★奈良県 二十代 男性★

はじめに、日本を美しくする会、田中会長、千種さん。お忙しい中、私たちのために時間を作り、ご指導いただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。

【私たちのために】

今回お話の中からも感じたことは、田中会長が私たちのためにメッセージを送ってくださったことです。今までお話されてきていない田中会長ご自身の体験から、「いま」へつながっていることをお話くださいました。その中で印象に残った言葉。

困ったことがあったから「いま」がある

困難やうまくいかないことが自分の今を作っている。問題から逃げないことが自分を成長させてくれる。今の自分はどうかと振り返りました。今の自分は周りの方々にたくさん助けられていると思います。目の前に問題が迫ったとき、自分一人でも逃げず、工夫しながら自分を成長していける心を持ちたい

なと強く思いました。

【調和】

今まで何度か田中会長とお会いし、その中で何度も「調和しながら」という言葉をお聞きしています。今回もありました。相手を傷つけず、相手の力をうまく借りながら進める。調和とはとても難しいなあと感じます。でもうまくいったときはすごいパワーを発揮できるんだろなあと思います。

道具ひとつとっても相手を傷つけない、相手に合わせて力を引き出せるもの。本来道具というのは、傷つけながら使うものではなく、相手とうまく力を合わせながら使うものなのかと気づきました。日々子どもたちとかかわっていく上でも、調和を心に持ちながら過ごします。相手の良さを引き出す。教師として子どもたち一人一人のそれぞれの良さを引き出したり、気づかせてあげたり、よりそんな教師になっていきたいと考えます。教室の中でも「調和」を目指します。

【環境が人をつくる↑↓人は環境をつくることができる】

人は環境に左右されやすい。自分もそうだと感じるし、環境しただいで成長できたり、できなかつたり。時間はみな平等にある中、環境が大きなカギになってくる。私自身も過ごしてきた環境の中でたくさん成長させてき

てもらっている。そこでこれから自分の目指すべきことは、「環境をつくること」。右にも左にも心が揺れる中、最後に良心にそった判断ができる環境をつくること。そのためにしっかりと学び、考え、工夫し、実践する。いまの環境で成長させていただき、その学びを目の前の環境に生かしていけるようにしていきたいと思います。その一人として日々努力していきたいと強く思いました。

貴重な時間、貴重な学び、気づきがありありがとうございました。

★兵庫 四十年代 男性★

【田中会長の講話を受けて】

田中会長ご自身の生い立ちから今までの人生を振り返ってご講演していただいたので、自分自身と重ね合わせながら、自身を振り返る貴重な機会を得た。「人に歴史あり」というが、その人の人生から学ぶことは、非常に意義深い。今までの自分自身と置き換えて考え、今の自分の問題を明確にしてくれる。示唆に富んだ話だった。

特に、「環境が人を作る」「環境が心を後押しする」という言葉が一番響いた。「掃除の力を信じきる」と、大谷先生が以前おっしゃったことがある。今も、掃除道具を持つたびに、その力を意識しながら掃除している。だ

からこそ、今回の話は「掃除の力」は「信念」にまで高められた感じがする。そして、環境といっても見える部分だけでなく、見えない部分こそが、より重要であると感じた。教室の机や窓や黒板、便器や鏡や床などの見える部分が整うと、自然と見えない空気が変わる。そのことを改めて信じ切ることができたお話だった。そして、それは自分が実践し、体感するからこそ会得できると感じた。また、一人での実践も大切だ。誰も見ていない、おてんとうさまとの対話で磨かれるものでもありとも思った。掃除をすることで、そこに流れる「氣」を変えられることができる。その見えない「氣」を作り出すのは、「一人で実践」である。

結局は頭だけでなく、毎日をどう過ごすのか、その取り組みが重要。その実践も習慣化、つまりルーティンにしなければ、変わらないとも感じた。身体からにじみ出る香りのようなものでないと、人を感化できない。香りを出すためにはやはり時間をかけなければならぬと思う。それが、相談役や田中会長の掃除にかけてきた時間なのだと思う。

掃除をしていると、自分を丸ごと受け止めなければならぬことに気づく。弱い自分、情けない自分、心が乱れる自分など、すべての自分を受け止めた上に、実践があり、だか

らこそ自分自身が磨かれるような気がした。自己受容できていない自分では、結局心のどこかで、いいところを見せようとする虚栄心が出てしまい、一人ではできなくなる。いいも悪いもすべて含めた自分を認め、その自分を汚れている便器なり、黒板なりに映し出し、掃除することで、自分が磨かれるような気がする。生徒に対峙したときも、いいところだけを見せても伝わらない。すべての自分をかけてことにあたるからこそ、伝わるのだと思う。すぐに頭で考える自分は少しでも体を使って、日々の実践を積み重ねたいと思う。

★大阪府 三十代 女性★

【10月10日 南大阪便教会 体験記】

田中義人会長がここまでして、私たち教師に講話し、掃除の実践をほどこしてくださいなのは、なぜなんだろう？

教師が担う責任の重さ、使命の大きさを実感した「南大阪便教会」となりました。日本を美しくする会の会長でいながら、惜しみもなく、自分のこれまでの人生の中で得てきたことを教授してくださいるそのお姿は、まさに鍵山秀三郎先生と重なる部分が多くあり、必死で田中義人会長のお話を吸収しようという話に釘付けになりました。

引き込まれる話ぶりは、等身大で飾らず、

そのままにお話ただけしていることを感じ、私は児童生徒の前で話すとき、こんなにも興味関心を引きつけるものになっていくのか？と自分に問いかける時間ともなりました。掃除の部分やその内容だけでなく、話し方、間の取り方、表情、身振り手振り……さまざまな部分で学ばせていただくことが多くありました。

感想発表で、大谷育弘先生がおっしゃられた通り、何事も「まずはやってみる」「やってみないとわからない」「たとえたったひとりでなくても続けないとわからない」ということは言うまでもなく、自分が今からでも実践すべきことだと思いました。

観音様のお話の中で出てきた「魂」。私の「魂」はどこに向いているのか、私の中にある「良さ」とは何か、見つけたくなりました。これを見つけないことも「やってみる」ことにある、「続けてみないとわからない」ことだということも理解できました。

これまでも「掃除の大切さ」「掃除のあり方」「なぜ掃除なのか」などということに對して向き合い、考えてきたつもりでしたが、まだまだ自分の中に落とし込めていないのがわかりました。掃除が掃除のままで、掃除がすべての事柄に精通しているものだとわかっていながら、掃除が掃除のままになって

いるのを感じました。どうやったら田中義人会長のような生き方ができるのかと自分の覚悟の足りなさに、がっかりするばかりです。「まずは自分が」

今一度、実践を続ける覚悟を持ち直したいと思えます。

この度、多忙を極める中お越し下さった田中義人会長、東京からお越し下さった千種敏夫専務理事、大阪掃除に学ぶ会の渡辺ヒサ様、ありがとうございます。皆様の想いを無駄にせぬよう、励みたいと思います。本当にありがとうございます。

最後になりましたが「南大阪便教会」開催に際し、ご尽力いただいた先生方、ありがとうございます。

★兵庫県 四十代 男性★

【便教会初心者研修会 感想文】

この度、日本を美しくする会の田中義人会長に岐阜県から、東京から千種敏夫専務理事にお越しいただき、大阪府立藤井寺支援学校にて「便教会初心者研修会」を初めて開催していただきました。

鍵山秀三郎相談役が想いを持って五十年以上続けてこられた掃除が「掃除道」として多くの人々へ継承されるようになりました。単なる掃除の方法を学ぶのではなく、日々の

生き方に活かすことによって自分自身と向き合うことができます。そして自分自身が変わることによって、周りに与える影響が良くなり、良い環境へと整って参ります。

今回、田中会長から、ご自身の生い立ちから、会社経営、社員教育等、時系列でお話をいただきました。鍵山相談役との出会いから掃除を始めるきっかけ、そして、掃除を続けることによって、掃除の持つ力を体感されたお話を伺い、その中で最重要ポイントは、

『鍵山相談役と出会った次の日から、一人で掃除を始め、今も続けている』

ということだと私は感じました。掃除の場所、道具、方法は後の問題。大切なことは、心のスイッチが入り、一人で始めることだと痛感しました。千種専務理事もまったく同じでした。心のスイッチが入った瞬間から毎朝一人で自宅近辺の掃除を始められ、今も続けておられます。

そもそも便教会というのは、教師がトイレ掃除をする会であります。しかしながら、毎日、自分一人で掃除を続けている教師がどれだけいるでしょうか。教師自身が「掃除道」の学びを日常に活かすことができている子ども達への教育に伝播していくものだと私

は考えます。しかしながら、私を含めて教師は自らの実践をせずに、すぐにどのよう伝えるかということばかりを頭で考えてしまうことがあります。だから逆に、伝えたいと思えば思うほど伝わらなくなっていきます。思いが強くなればなるほど、相手に矢印を向けてしまうのではないのでしょうか。今回、田中会長から教えていただいた「クエン酸の使い方」「ワックスの効果」も知識として学ぶだけでなく、自らの実践を続けていく中で会得することに意味があるのではないのでしょうか。

鍵山相談役が五十年以上続けてこられた「掃除道」。そして、それを「日本を美しくする会」、「掃除に学ぶ会」として、全国に広め、深められている田中会長。私など、まだまだ初心者、離乳食を食べさせてもらっているレベルだと感じました。しっかりと、「今を受け入れる」ことから始めたいと存じます。ありがとうございます。

★大阪府 三十代 男性★

【こだわらない自分へ】

「近い人ほど伝わりにくい。いいことほど伝わりにくい。」

掃除と出会って、掃除とはこうしたやりかたが正しく、教えてもらったことが全て

の自分でした。

少し目線を変えたり、自分で考えたりするとわかるようなことであつても掃除へのこだわりを捨てきれない自分がいました。そんな中、田中義人会長のお話を聞かせていただき、「トイレ掃除のときに、尿漉しや汚れているトイレに手をつっこむことだけが掃除じゃないですよ」「掃除はトイレだけではないです。トイレよりも鏡やまどの掃除をしたっていいんですよ」「汚れと向き合つて、どのやり方が相手を傷つけず汚れをとってあげられるか考えることが大切です」など、今までの私は汚れたトイレをピカピカにすることで、やりがいを感じていました。しかしながら、それは相手のことを考えず自分よがりになつて自己満足から抜けだしていなかったのだと感じさせてもらいました。

田中義人会長が鍵山相談役との出会いで感化され、次の日から神社の掃除を始められた生き方に学ばせてもらうとすれば、今まで自分がトイレ掃除をして満足していたことから抜け出すことからスタートしようと感じました。トイレにこだわることなく、普段の生活において、「キレイにする」「いい環境をつくる」「相手に合わせる」掃除ができるよう実践を継続する。

こだわることから離れ、常に新鮮に素直に過ごしていけますよう掃除の力をお借りして生活していきたいと深く思いました。ありがとうございます。

★大阪府 五十代 男性★

【すべては調和の中から生まれる】

藤井寺支援学校での初めての初心者研修会に参加させて頂きました。東京からお忙しい中、田中義人会長、千種敏夫様がお越しいただき、講話、実習と充実した時間を過ごさせて頂く中で、田中会長の生き様、お人柄に触れ、ありがたい時間・空間を共有させて頂きました。田中会長が1991年に鍵山秀三郎先生と出逢われ、掃除との出逢いによって自身が変わられたことや幼いころのお話など、田中会長と長年一緒に過ごしている東京掃除に学ぶ会の千種敏夫さんさえも、これまで一度も聴いたことがないと言われる内容のお話を聞かせて頂くことが出来ました。そのお話は、すべて教育につながるものであり、日常生活、掃除を通しての生き方、人との関わり・ご縁の深さ、教育の原点、リーダー育成、子育て論にまで及び、すべてが新鮮で、心に響くお話ばかりでした。そして、田中会長の笑顔と、ユーモアを交えてのお話に会場

全体が温かい空気に包み込まれ、時間の経つのを忘れるくらいでした。そのお姿は自然体で、我々の目線に合わせて、これまで人前でお話に出したことがないと言われる幼いころからのお話も聴かせて頂き、それがあつたお陰でその後のお話が私に中に非常に深く心に入ってきたように感じました。まさに教育の原点に立ち返らせて頂いたように思いました。環境が人をつくる。そのためには常に環境を整えることが大事になってきます。また日常の中での「挨拶」の大切さにおいては、挨拶はするものではなくお互いが「交わす」もの、お互いが調和してこそが真の挨拶である。それはまさに対立か

らは何も生まれないという生き方、教育の原点であると感じました。上手くいかないことがあるから気付けることもあり、そこから逃げない限り人間は成長できる。お互いが歩み続け、心を寄せることが大切である。常に相手の立場に立って・・・これはトイレ掃除においては、便器を傷つけない、道具を傷めない、自身と便器が調和してこそ、これがまさに生き方の原点、教育の原点であるのです。また「環境」をつくる、整えることの大切さに触れ、リーダーが環境をつくる、環境をつくれるリーダー

の育成が必要だというお話がありました。まさに「自立型人間の育成」だと感じました。そのリーダーとは、行動力のある人間、心の幅のある人間、思いやりを持った人間、すべてを受け容れることが出来る人間・・・、リーダー育成には答えはないのだという奥深さにも気付かせて頂きました。挨拶を大切にすると、物を大切にすると、人の心を大切にすると、となのだとつながりました。印象に残ったお話の中で「掃除は今を引き受ける、今を取り戻す」「本来持っていた良いものを引き出す」という言葉が心に残りました。これは、失われつつある日本の伝統文化、日本人の心を大切にすることなのだと思われ受け止めさせて頂きました。そして実践編では、物事すべてには意味があるのと同じように、掃除及び道具すべてに意味があること。ただし使い方を間違えると傷つけてしまうことや道具を痛めてしまうことにつながる危険性がある。これは教師と生徒の関係と同じであるということ。そしてこういったことが理解できれば、実践が感性を磨くことにすべてが繋がって行くということを学ばせて頂きました。これまで尿こしの汚れを力任せにゴシゴシこすって汚れを落として満足していた自分がいま

した。今回、「クエン酸」に数時間つけた尿こしを磨くと余分な力を加えることなく汚れが落ちていきました。本来、汚れを落とすとは力任せにこするのではなく、如何に力を加えずに汚れを落とすかということへのヒントを頂いたように感じました。まさに調和することだと実践を通して再確認いたしました。そんな中で、実践を通して工夫が生まれ、そこからどんどん実践が更に深まっていくことを田中会長のお話、実践を通して学ばせて頂きました。そして何事も「心」あつてのことで、鍵山先生が常々お話されている「凡事徹底」とは、実践を通して変化していくことだと改めて理解を深めさせて頂きました。「一人でも始める」、という覚悟ある田中会長の生き方から多くの事を学ばせて頂きました。今回お忙しい中、大阪までお越し頂き、時間ギリギリまで御指導いただきましたことに深く感謝申し上げますと共に、私たちは、決して学びオタクにならないように、日常に落とし込んでの覚悟ある実践者になっていくことが、これからの教育界の土台作りにもつながっていくと気が引き締まる思いになりました。

★兵庫県 男性★

○田中会長からの学び

、ただ身を低くして実践あるのみ、この一言につきます。田中会長のように続けてこそ、それがいえるのであり、そういうオラが自身から発せられるのだと、そういう人間になりたいとあらためて感じました。また、我々教師の本道ともいえる授業、生徒指導にも通ずるものがありました。
、今を引き受ける、ということですが、今、その子はなぜそうなのか。どうしてそういう行動をとってしまうのか。課題が大きい子ほど、まずは受け入れること。その教師の子ども受容がその子の居場所をつくり、次のケア、支援の道すじが見えてくる。トイレ掃除で便器に向かうその心持ちこそが、我々教師に求められているのだと再確認いたしました。

最後にトップの仕事として、ご教示いただきました。田中会長や鍵山相談役にまだまだ程遠い私ですが、児童生徒、職員の前ではトップに近い立ち位置にあります。こんな学校をつくりたいというビジョン、想いと気持ちよく仕事ができる環境づくりを念頭に、まずは身を低くして実践あるのみです。ありがとうございます。

○実習での学び

、工夫、つまり、対象物、汚れに合わせた磨き方がある。やみくもにこするだけではない。傷をつけてはいけない。道具を大事に使う。この心がけが自分をつくる。

クエン酸は早速購入。ガラス磨きは来週より即実践です。
心即姿、姿即心。率先垂範、まずは自分から動いてまいります。

★大阪府 二十代 男性★

【使命？】

日本を美しくする会 会長 田中義人様、専務理事の千種敏夫様、本日は遠路はるばる大阪までお越しくださり、多くの学び・気づきを頂戴し、本当にありがとうございます。とても濃い時間の中でしたので、消化しきれないところ、話の中で気づけていないところ、聞き逃しているところ等あるかもしれませんが、振り返らせていただきます。

掃除というものへの想いが、確信・自信へと繋がっていき、自分の中で確固たるものへとなっています。私は掃除を始めて、というよりは、鍵山掃除道と出逢わせていただき、2年になろうとしています。この2年間でめまぐるしく、自分の行動・考え方・そし

て人生が大きく今までとは違う方向に向かっているように感じます。しかし、田中会長のお話を聞かせていただく中で、感じたことがあります。大谷先生が最後におっしゃられていたように、田中会長は鍵山先生と出逢われた次の日から、家の近くの神社に掃除に向かわれました。そのスピードといいますか、なんといいいますか、その想いと行動の一致に感動しました。しかし、私はどうでしょう。鍵山先生をはじめ、多くの素晴らしい方々と出逢わせていただいているにもかかわらず、行動にも少しずつしか動かしていない現状です。やはり、良いと思っただけはすぐに取り組むということが大切であります。そして、もっと大切なものは何かといいますと、今まで自分が歩んできた道であるということだと思います。幼いことから、すごい経験をされてきていて、研ぎ澄まされた状態で鍵山先生と出逢ったのだろうと、勝手に思っていました。その知らないところでの積み重ね、そして、自分以外の人が自分のために積み重ねられているのではないかと思います。だからこそ、今回のような会に参加させていただく機会があったと思いますし、そして何より、これだけの出逢いがあったのは、確実に自分のおかげではありません。

田中会長にしても、鍵山先生にしても、な

ぜこれほどまでに、今まで積み重ねてきたものを教師である私たちに惜しみもなく伝えてくださるのだろうと考えると、今の自分が本当に小さく見えてきます。教師に与えられた使命は？自分に与えられた使命は？と自分に問いかけたくなります。やはり、覚悟が足りません。すぐ目の前で背中を見せてくださる皆様のように、すぐに、即行動、そして、すべての人・物・社会と調和できるように生きていきたいです。

★大阪府 二十代 女性★

【便教会初心者研修会に参加して】

今回、初心者研修会に参加させて頂き、大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

講話の中で、私の心に残った言葉が二つあります。まずは、「掃除をすると、見えないところが見えてくる」という事です。私は便教会には一度だけ参加させて頂いたことがあります。その時はただ目の前のトイレを綺麗にすることだけを考えて取り組みました。スツキリした気持ちで家に帰ると、今度は家のトイレの汚れが気になるようになりました。今まで普通に過ごし、掃除をしていた家のトイレですが、一度参加させて頂いたことで今まで気付かなかった自分の家のトイレ

の汚れに目が行くようになりました。また、トイレだけでなく、お風呂や窓のサッシなども気になるようになりました。私は講話の中でこの言葉を聞き、ふとその事を思い出しました。一度参加しただけで日常の気になる所が増えたのだから、きつと便教会に参加されている先生方は、小さな変化もすぐに見つける事のできる『気付きの目』をもたれているのだろうと感じました。

またもう一つ、「相手を傷付けずに掃除をする」という言葉が印象的でした。今まで掃除をする時には、いかにその場が綺麗になるか、その汚れが取れるかという事を考えていました。しかし、相手を傷付けずという考えを覚えて頂き、ハツとさせられました。無理矢理ゴシゴシと掃除をしても、傷が入ってしまえば綺麗になつたとは言えません。また、それを教育の場に置き換えて話してください、強引に力尽くで解決しても結局は意味が無いという事を考えさせられました。

今回残念ながら実習の方は参加できませんでしたが、講話の中でたくさん事を考えさせられ、本当に良い時間だったと感じています。今回の講話で考えた事を、ぜひ子ども達に返したり、日常生活に活かしたりしていきたいです。ありがとうございました。

★大阪府 三十代 男性★

日本を美しくする会田中義人会長と千種敏夫専務理事をお招きし、第1回便教会初心者研修会を開催致しました。参加者は26名で、関西のみならず東は東京、西は福岡から学びに来られる先生方もおられ、事前申し込みのメールを頂く度に、気が引き締まる想いでありました。また今回、田中会長と千種専務理事にわざわざ大阪までお越し頂くことになった経緯は、8月末の愛知県で開催された便教会総会でお会いした時がきっかけであります。田中会長にクエン酸の使い方などを質問させて頂いたところ、細やかにご説明して頂きました。そこで、一度じっくり時間を取ってお話を聴かせて頂きたいとお願いしたところ、即了承して頂きました。この田中会長のお姿に、我々教師が学ぶべきところがあると感じました。これほどまでに素早く動けるでしょうか。翌日にはご予約を確認していただき、開催が決定しました。まさに光のようなスピードです。そして、大阪であろうが、どこであろうが、時間が許す限りどこへでも行く。時間や距離を越え、即行動されるそのお姿が輝いておられるかのように感じました。

田中会長の妻さは、会場校である藤井寺支援学校に到着されてからも同様でした。到着

後すぐに、実習で使用する鏡、窓、床、尿こしなどの状態を確認されました。まず鏡に向かわれたとき、どのようにして汚れが落ちるか、どのような道具を使うか、どの洗剤を使うのがよいかなど、見たこともないほどのスピードで試されておられました。印象として、考えることと行動がほぼ同時といった様子でした。まず、私であれば頭で考え、動きが鈍くなっているところですよ。いや、それどころか、この汚れには、この方法がいいという発想に至りません。後の講話で、田中会長がされていたことがよく理解できました。掃除というのは、そのものが本来持っている良いものを引き出すことである。相手を傷つけることなく、良いものを引き出す。そこが大事であると教えて頂きました。

一貫して田中会長は、どんな良い方向へ進むことができるように工夫をされています。その根本には、「良心に従った生き方が一番よい生き方である」という田中会長の信念があるのだと感じました。そしてその生き方を身につける方法は、日々の積み重ねしかないのだと学びました。田中会長は鍵山相談役とお会いした翌日から自宅近くの神社の掃除に取り組まれたとのことでした。講話の中で、とてもさりらりとお話されたので、「ふむふむ」と聞き流してしまいましたが、こ

こが頭で動く私とは大きく違う部分であります。頭で『良いこと』はわかってはいても、すぐに動くことができないのが私の現状であります。しかし、田中会長は『良いこと』を即行動に移され、工夫を凝らしながら続けて実践を積み重ねておられます。そういった掃除を通して、ずっと自己変革をされてきたのだと想像します。できない理由を作り上げ、言い訳をして、結局やらないのは自分であります。ここで一歩踏み出し、自己変革し、良い環境を作り、そして良い学校を作り、良い日本を作る。そのために『今』一歩を踏み出さなければならぬのは我々教師であると強く感じます。自己変革すべきは、まず自分自身であります。教師自身であります。そして今回の研修に参加した我々教師は各職場にて、良きリーダーとなるべく、意識高く日々取り組む必要があるのだと田中会長からメッセージを頂いたと感じております。心より感謝申し上げます。